

2022 年度 玉川学園教育課程特例校評価（自己評価結果）

評価：4（十分達成）、3（やや達成）、2（やや不十分）、1（不十分）

評価区分	評価項目	実施内容・状況	2022年度の自己評価	
JPクラス・EPクラスにおける日本語と英語による指導	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別免許を保有するコーディネーターを配置し、カリキュラムや全体運営を統括・管理出来ている。 ● 教育部長を中心にコーディネーターと教務主任が連携・調整を図ることで英語と日本語による指導を円滑に実施、効果的に学べる環境を提供できている。 	4 4	
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 英語で教科指導を行う際は、学習指導要領の内容事項が担保されるよう、日本の教員免許保有者と外国籍教員（特別免許保有者等）で協働して指導計画や評価方法などを策定、実施に努めている。 	4
		授業は円滑に運営できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 1・2年生は学級担任制、3～5年生は教科担任制で学習指導を実施している。 ● 日本語指導教科は検定教科書を、英語で指導または英語と日本語で指導する教科は検定教科書とその翻訳版、その他内容に応じた副教材を活用している。 ● 第1言語である日本語を着実に身に付け、その上で英語を同時に身に付けるという考えで学習を進めている。 	4 3 4
	児童・生徒への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校1年入学時点では英語力を問う試験は課さず、多様な背景を持った児童に対して教育の機会を提供している。 ● EPクラス編入希望者に対しては学年相応の英語力も必要となるが、学習環境や見通しなどを説明し、JPクラスのメリットも含め丁寧に説明し、個々に応じた対応を行っている。 	4 4
		入学後の対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ● 全教室に教師コーナーがあり、質問できる体制を取っている。 ● 英語力が不足する児童に対しては、少人数個別指導など弾力的に対応し、学力面は定期的な補習（SH）も実施している。 	4 2
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。 ● 保護者に向けての教育説明、実践報告に努めている。 	4 3
			<ul style="list-style-type: none"> ● 授業公開や研究会などを通して取り組みの成果を発信し、国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。 	3
	実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 英語力の向上がみられる。 ● 国語や算数などの基礎学力も定着している。 	4 3
	その他	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 6年生からのMYP開始を見据えて、4年生以上のカリキュラムの策定、実施を進める。 ● 外国籍教員の研修の充実 	3 4

評価区分	評価項目	実施内容・状況	2022年度の自己評価	
IBクラス・MYPにおける英語による指導	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育部長（IB担当）を配置し、IBプログラム全体運営を統括・管理している。 ● 教務、カリキュラム管理では、コーディネーターと教務主任（IB担当）を配置し、一般クラスとの連携を図りながら運営している。 ● 人事、総務関係では専任の事務職員を配置し、教員が教育活動に専念しやすい環境を整えている。 	4 4 4	
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	● IBクラスの詳細を説明したガイドブックを作成し、オリエンテーション時に説明を行っている。	4
		学習指導要領の内容は適切に実施されているか。	● 教務主任（IB担当）及びIB教務関係担当者間で、確認・全体管理を行っている。	4
	児童・生徒への教育上の配慮等	入学時における対応は適切か。	● 入学後の学習を見据えた入学試験を実施し、多様な背景を持った生徒に対して教育の機会を提供している。	4
		入学後の対応は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ● 英語力および日本語力が不足する生徒に対しては、早朝の集中講義の提供や、習熟度別のクラス分けで効果的に言語力が身につくよう配慮している。 ● 模擬国連会議活動等への参加や、大学進学を視野に入れた講座など、教室の学びだけではない実践的な国際教育の場を提供している。 	3 4
		国際標準教育が提供できているか。	● 教務主任（IB担当）により双方のカリキュラムを適切に管理し、生徒がIBプログラムと一条校の学習指導要領の内容を効果的に全うできるよう、入念な措置を講じている。	4
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	● 年度毎のテーマに沿った説明会・講演会（IBフォーラム）において生徒による発表を行うなど、入学希望者のみならず一般向けにも授業の実践状況を紹介し、情報の提供に努めている。	3
実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● IBでの学びを通じて「批判的思考」能力が培われている。 ● 将来の進路選択に際して、自立した考えを持つ生徒の増加。 	4 4	

評価区分	評価項目	実施内容・状況	2022年度の自己評価	
IBクラス・DPにおける新科目の設置	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育部長（IB担当）を配置し、IBプログラム全体運営を統括・管理している。 ● 教務、カリキュラム管理では、コーディネーターと教務主任（IB担当）を配置し、一般クラスとの連携を図りながら運営している。 ● 人事、総務関係では専任の事務職員を配置し、教員が教育活動に専念しやすい環境を整えている。 	4 4 4	
	指導計画及び授業の内容	指導計画が適切に策定、実施できているか。	● IBクラスの詳細を説明したガイドブックを作成し、オリエンテーション時に説明を行っている。	4
		学習指導要領の科目との対応関係を求める科目は適切に実施されているか。	● 教務主任（IB担当）及びIB教務関係担当者間で、確認・全体管理を行っている。	4
	児童・生徒への教育上の配慮等	転編入や一般クラスとのクラス変更の際に、配慮出来ているか。	● IBクラス、一般クラス間で生徒や保護者の希望によるクラス変更を一定の基準の元、弾力的に行うとともに、他校へ転出する場合も指導対応する体制を取っている。	4
	情報提供の状況	学内外に実践状況を紹介、情報提供に努めているか。	● ホームページや各種パンフレットを通じて、実践状況を紹介、情報提供に努めている。	4
			● 授業公開や研究会などを通して取り組みの成果を発信し、国内外からの見学・視察へ可能な範囲で対応している。	4
実施による効果	特別の教育課程の編成・実施することにより目的に対する効果が表れているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の高等学校の学習環境のもと、IBDPの学習内容をリンクさせて学習することが出来る。 ● 将来の進路において、国内外への大学進学などより幅広く選択できる可能性が広がる。 	4 4	

玉川学園は2006年から幼小中高一貫教育『K-12 一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園 (Kindergarten) から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。小学部から高等部までの各学年を1～12年とし、さらに3つのディビジョン『Primary Division』『Secondary Program Division』『IB Programs Division』を設けています。

Primary Division (幼稚部および1～5年) = 幼稚部および小学校1～5年

Secondary Program Division (6～12年) = 一般クラスの小学校6年～高校3年

IB Programs Division (6～12年) = IBクラスの小学校6年～高校3年

玉川学園[幼小中高]

令和4年度学校関係者評価結果

K-12 父母会役員からの意見聴取 (まとめ)

2022年度の学校関係者評価会議では、本学への要望・期待について、保護者の視点からご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

◆K-12 教育活動について

<Primary Division>

- 英語教育だけではなく、教員研修や授業力の向上に務めていることが分かった。沢山の目標があり、日々大変だと思うが、子どもとの関わりが減っているように感じている。今後は、異学年異クラスの交流を増やすなど、一貫教育の良さを生かした私学の教育に期待する。
- コロナ禍におけるハイブリッド方式の授業や行事の工夫など大変な状況の中で、教職員の体調不良が数名いることが大変気になった。人材確保の観点からも、教職員の心身のケアを心掛けてほしい。
- コロナ禍において、迅速にオンライン授業などの環境整備を行い、サポートをしていただいたことで、学習環境の維持や学校生活の継続が可能となった。今後も、状況の変化に応じた適切な対応を行ってほしい。

<Secondary Program Division>

- BYOD が始まり毎日ラップトップを持ち帰るようになった。ただでさえ教科書とノートとお弁当などの荷物で重いのに、全授業で携帯するよう言われているのに使わない時が多いと聞いている。カリキュラム検討の時に、BYODのあり方についても検討してほしい。
- それぞれの学年に応じた目標設定と、それに向けた取り組みがわかりやすかった。

<IB Programs Division>

- コロナ禍においても、充実したオンライン環境を迅速に整え、どのような状況になっても対応できると感じた。
- 都度、振り返り、課題抽出、アクションを怠っていないことを再認識した。

<Division 共通>

- コロナ禍において、児童生徒へのサポートは本当に手厚く、コロナに罹患してもオンライン授業で心配なく過ごせたことが、児童生徒や保護者の安心に繋がった。IBでは過去最高の成績を記録するなど、先生方のフォローのもとでの生徒主体の取り組みが大きく、学園全体で先生方の大きなサポートを実感した。
- 自己評価に際しては、達成できたことよりも、達成できなかったことについて「なぜ達成できなかったのか」を深掘りし、達成に向けて「どのような打ち手を講じるのか」が最も重要だと考える。未達課題や重点施策に対する「原因分析」と「改善策」が不十分だと感じた。

◆Tamagawa Vision 100 (2029) ブランディングプロジェクトについて

- 玉川学園が日本のみならず世界から選ばれることを目指してブランディングを進めてほしい。
- 縦に横に人と人とのつながりを広げ、玉川らしさ・玉川の良さを共有して、盛り上げて行ってほしい。
- 様々な面でブランド価値向上に邁進されることを期待する一方で、何に力点を置いてブランド向上を図られるのか非常に興味がある。「入学者数」「進学先数」「多岐に渡る進学先の豊富さ」「ある一定面で成果を収めること」「玉川特有のウェルビーイング・生徒の幸福感を数値化すること」等、100周年とその後の飛躍にも目を向け、どの観点からブランド向上を図るのか大いに期待する。
- 視覚からの情報の宣伝力に期待する。玉川学園の良さを具体的な言葉で表すことで、若い方にアピールでき、存在価値や意義を高め、今の子ども達へ宣伝できると良いと感じた。
- 100周年を機に改めて玉川学園のブランドは何かを整理するととても良い機会だと感じた。学園の本質的な価値を見える化し、卒業生と在校生のエコシステムが醸成されるようなブランディングに期待する。
- プロジェクトの目標が非常に明確で分かりやすい。ゴールに向けての様々な会議やアンケートを基に更に生徒や保護者に伝わっていく事を期待する。
- 玉川学園には、他の学校にはない教育環境が沢山あるものの、発信力が弱いため、その良さが外へ伝わっていないように感じていた。今回のブランディングプロジェクトを通して外へ発信をする事で、入学希望者や良い指導者が増え、教育の質が上がっていくことを願っている。授業風景や学校施設を、情報番組などのメディアに取り上げてもらうことも、外へアピール方法の1つとなるのではないかなと思う。
- 100周年に向けてこのようなプロジェクトが行われているということを知らなかった。今後の玉川学園に更なる期待が高まる一方、最近ではコロナの影響もあり本物に触れる教育がなされていないように感じており、そこを強化してほしい。また、外部の方は「玉川はただ学費が高い学校」というイメージがあるようなので、小原先生のお話をもっと世に出すべきだと思う。
- 自分自身、卒業生ではないが、子ども達が生き生きと充実した毎日を送っている様子や、保護者・卒業生・先生方の愛校心に触れるにつれ、玉川学園の素晴らしさを感じている。しかし、受験生はどうしても偏差値から学校選びをすることが多いため、玉川学園の良さを伝えるには、まず足を運んでもらい、学園の雰囲気を感じてもらうことが重要ではないだろうか。学校行事以外に、例えば地域の方が日常的に散歩できるエリアを作ったり、丘めぐり講座やこども食堂、公開講座、赤ちゃんラボなどで学園を身近に感じていただく取り組みを検討すると良いと思う。また、先日実施されたブランディングのアンケート調査にも気づいていない保護者や、ブランディングの目的などを理解されていない方が多く、より多くの保護者の意見を集めるためには、掲示板だけではなく、クラスルームへの掲載もした方が良いと思う。ブランディングはもちろん、現在在学中の生徒の学校行事等による満足度の向上も必要であると思う。生徒、保護者、先生が玉川学園に誇りを持ち、将来に期待できるように、学校全体で努力していくことが必要だと思う。
- 非常に期待値が高いプロジェクトだと感じた。現在在籍する教職員・児童生徒・保護者の、学園への思いや在りたい姿が整理されて行くことを楽しみにしている。
- 卒業生の父母の方からは、玉川学園に入学させて本当に良かったと聞くことが多い。きょうだいを他の学校へ通わせている方は特に実感しているようなので、学園に関わりがない方にも、その良さをお伝えする事はとても良い事だと思う。

◆教育課程特例校

【評価ポイント：特例部分の学習活動が適切に行われていると思うか】（回答：19名）

適切である：57.9% 概ね適切である：36.8% やや不適切である：5.3% 不適切である：0%

<JP・EPクラス>

- 日本語と英語のバランス、クラスによっては日英併記活用等、児童の理解度に応じて腐心されている様子とその解決に対応する施策がよく分かった。特に児童によっては言語としての習得は出来ても、理解度がどちらかの言葉では上手く進まない学年もあると思うので、個々の理解度に合わせて対応していることに安心した。
- JPクラスに在籍している子どもを通し、毎日継続して英語の授業があることで自然と発音や会話の中の単語を身につけているように感じている。EPクラスは目標地点が明確で、IBでは過去最高点や結果が出ているようで日々の積み重ねによる結果だと感じた。
- 個人の能力の把握とそれに伴う補習授業などをもう少し充実させてほしい。また、学校側から学習に関する情報発信が少ないように感じている。個人単位で今の学力やもっと伸ばしたほうがいい事などを見える化して、児童本人と保護者へもっと発信すれば、円滑に勉強を進めていくことが出来るのではないかと感じている。
- JPクラスでの教育について、児童が興味を持つような教材作り、授業展開をしていると思う。
- 児童の学習負担が当該学齢にしては大きいと感じている。労作など、古き良き伝統を守っていることには感謝している。

<IB-MYP>

- 生徒の状況を把握する努力をし、教員間の情報共有を常に更新し、各クラスの体制を整えていることが分かった。
- IBクラスにおいては、各教科の教員が全7学年を総合的に、先を見据えた細やかなサポートをしていると感じている。また、保護者を取り込んだ三位一体の教育を具現化していることに感激している。

<IB-DP>

- 教員へのサポート体制、生徒へのサポート体制が充実していて、それぞれが教育または学校生活に専念できる環境作りがされていると思った。
- 外国籍の教員の方にも、玉川を理解していただく事が第一。引き続き力を入れて欲しい。

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園小学部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
玉川学園小学部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
玉川学園小学部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html	左に同じ

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
 一部、計画通り実施できていない
 ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
 実施していない

<特記事項>

特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、小学校段階におけるグローバル人材育成のため、教員配置等の実施体制の工夫や学力の定着状況等、実施による効果について確認できている。また、バイリンガルクラス（EPクラス）に留まらず、一般クラス（JPクラス）も含め、成果をふまえた教育課程や教育活動、評価方法の見直しなど、相互間で連携しながら進めていることが確認できている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・取り組みの成果の発信をオンラインなども活用し、さらに積極的に行うこと。
- ・対面とオンラインのハイブリッドによる教育活動を意識した取り組みの更なる充実。
- ・日本語と英語で学習する教科の継続したカリキュラム開発、副教材の活用。
- ・戦略的な募集、採用活動による指導教員の確保。

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園中学部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
玉川学園中学部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
玉川学園中学部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html	左に同じ

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
 一部、計画通り実施できていない
 ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
 実施していない

<特記事項>

特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、日本の教育制度と IB プログラムを融合した国際教育を展開するため、必要となる教職員採用・配置および教職員研修を実施するとともに、教員配置等の実施体制の工夫や学力の定着状況等、実施による効果を継続的に確認できている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・取り組みの成果の発信をオンラインなども活用し、さらに積極的に行うこと。
- ・小学部のバイリンガルクラス（EP クラス）からの内部進学生と、外部入学者との英語力のレベル差に対する配慮（入試設定や入学後のサポート体制の充実など）。
- ・外国籍教員、外国人留学生や外国籍の生徒などを含む多様性を意識した教育環境の整備、支援スタッフの配置。
- ・正課外での異学年交流や、父母会活動をからめた教育活動の展開。

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
玉川学園高等部	学校法人玉川学園 学園教学部	私立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
玉川学園高等部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/quality.html

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
玉川学園高等部	https://www.tamagawa.jp/academy/education/k-12/assessment.html	左に同じ

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

特別な教育課程の実施状況の把握・検証にあたっては管理機関が認定校の自己評価および学校関係者評価の項目・内容、実施にも関わり、評価結果を確認のうえ公表した。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、日本の教育制度と IB プログラムを融合した国際教育を展開するため、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の設置を含めた実施体制の工夫や学力の定着状況等、国内外への大学進学など、実施による効果について確認できている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

- ・自己評価および学校関係者評価による点検、評価結果を踏まえ、指導計画および授業の内容等、法律に規定する教育目標に照らして適切であり、学習指導要領に定める内容事項についても確認、全体管理を行っていることを確認できている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・自己評価および学校関係者評価を継続的に行うための内容のチェック、更新。
- ・取り組みの成果の発信をオンラインなども活用し、さらに積極的に行うこと。
- ・現在特例校として認められている以外の国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目について、高等学校学習指導要領の科目との対応関係を求めていくことを検討。
- ・2022 年度から年次進行で進む新学習指導要領の実施に伴う対応（教育課程改訂、外国籍教員への対応）。
- ・自校教育など、外国籍教員を含めた教員研修を充実させる検討。